



申1号 第41回定期大会発言等に基づく申し入れ 第1回 団体交渉を行う！その1

団体交渉の冒頭、JR東労組の問題意識を会社に訴える！

第41回定期大会では、安全問題や職場・働き方が変化する中で負担が大きくなっている現実、未だに発生している不当労働行為、パワハラなど経営姿勢に対する多くの厳しい発言があった。大会以降も各地方において許しがたい事象が後を絶たない。

特に昨年の申1号でも課題について議論し、議事録確認も締結しているが、新たなジョブローテーションについて確認したことが守られているとは到底思えない。

千葉地本ではキャリアプランとはかけ離れた異動の懲遷をされた組合員が、自分のキャリアプランをいくら訴えようともまともな回答はされず、拳句の果てには現場長から「昔国労の青年部長はクビになった。あなたも駅に行って頑張ってもらいたい」と言われた組合員がいる。大宮地本では「駅に行ってもらいたい。あなたでなくても良いんだけど」「次の職場で頑張ってもらいたい人、この職場で頑張ってもらいたい人、あなたは前者だから」と全く異動の理由も誠意もない管理者の発言。家族が基礎疾患を抱えているのでコロナ禍の今の時期の異動は見送ってほしいとの訴えには「転勤したからコロナに感染するわけではない」「転勤することであなたの家庭は崩壊するのか」という言動には憤りしか感じない。

これは一部だが、多くの職場では、経営姿勢に対して不満・不審・怒りなど多くの感情があるし、苦しめられている。昨年も申1号で議論しているにも関わらず、確認事項が守られていない。このような現実を真摯に受け止め是正し、是正すべき実態が多くあることを認識し、今交渉の真摯な議論を要請する！

会社: 本社・本部間で議論したことは地方に伝えている。本人のキャリアプランに基づき、本人とコミュニケーションをとった上で行っていく。その中には、本人の意に沿わない異動もあるが、会社側と本人双方のコミュニケーションをとった上で、本人にとって必要な異動を行っていく。指摘いただいた点について関係機関と連携をとっていく。地方でも真摯に議論していく。議論経過を踏まえていくことに変わりはない。

1. JR東日本およびグループ会社・パートナー会社等で発生する事故・事象に対する原因究明を行い、世代交代や各種施策等の過程における教育・訓練・人材育成等の課題を明らかにし、技術・技能継承を確実にし、安全第一の職場風土を構築すること。

2021年度は死亡災害0件でしたが、あわや触車・死亡事故がここ数年多発している現実があることについて強い問題意識と危機感を持っていることから、営業、検修、工務の視点で議論を行いました。(その2をご参照ください)

来宮駅でのあわや触車・死亡事故を巡っての議論において

事象発生当日の「至急！注意喚起」として社員周知した支社が作成した資料には、事象が発生した付記として

「作業終了後の券売機対応や調整業務等が気になっていた」

と記載されていたが、後日作成された資料には消されている。

当事者の状況を把握したにも関わらず、その心理・心情からくる**背後要因を削除していることは問題だ！**
人間労働としての特性を踏まえて原因究明をするべきである。
真の原因究明に向き合わなければ、真の対策には行き着かない！会社として改めて原因究明に向かうべきだ！